



スポーツをととして健康な体と心を養おう 平成24年度 美郷町スポーツ少年団結団式

4月21日に総合体育館リリオスで美郷町スポーツ少年団結団式が行われ、19単位団が参加しました。結団式は、一年間の活動目標を誓い、各団の交流を図るために平成21年度から毎年開催されています。式では美郷剣道スポーツ少年団の武藤和弥さん（千屋小6年）が団員を代表して宣誓し、「スポーツによって自分の力を伸ばす努力をします」と一生懸命活動することを誓いました。



地元の子もたちと交流を深めました 大田区子どもガーデンパーティー

4月22日に東京都大田区の大摩川緑地区民広場で「第61回大田区子どもガーデンパーティー」が開かれ、町内の小学校6年生児童7名が参加しました。このイベントは、友好都市東京都大田区で毎年開催されているもので、地域の方たちの手による子どもたちのためのお祭りです。

参加した児童は、起震車による地震体験や、来年開かれる「スポーツ祭東京2013」のデモ競技であるパラグライダーを体験して遊びました。当日は小雨が降るあいにくの天候でしたが、参加した児童たちはいろいろな遊びを通じ、地元の子もたちとの交流を深めていました。

町内農家の皆さんと一緒に作業しました 仙台市の中学生が農業体験

5月16日から17日にかけて仙台市立沖野中学校の2年生34名が町内の農家を訪れ、農業体験を行いました。この取り組みは中学校の野外活動の一環として行われたもので、美郷町都市農村交流推進協議会員の9農家に、農業体験や民泊の受け入れに協力していただきました。

田植えやじゃがいもや苗植えなどの慣れない作業に最初は戸惑っていた生徒たちでしたが、農家の方からアドバイスを受けて一生懸命がんばっていました。



百年後まで伝えたい 佐竹義重公没後四百年記念事業

5月19日に佐竹義重公没後四百年記念碑除幕式（主催：佐竹義重公没後四百年記念事業実行委員会）が開催されました。記念碑は没後四百年を記念して新たに六郷城址に建立され、佐竹知事が揮毫した題字「通庵公卒後四百年碑」が刻まれています。除幕式後には記念式典が行われ、高橋悦央実行委員長が「郷土を愛し、まちの礎を築いた義重公の功績をさらに百年後まで伝えていきたい」とあいさつしました。式典後は渡辺英夫秋田大学教育文化学部教授による記念講演が行われ、参加者たちは郷土の歴史について熱心に耳を傾けていました。

お稚児さん 色鮮やかな着物姿で練り歩き 六郷仏教会の花まつり

5月20日に六郷仏教会主催の花まつりが行われ、ピンクや緑の華やかな衣装に身を包んだ43名の子どもたちが市場通り商店街などを練り歩きました。花まつりはお釈迦様の生誕を祝う行事で、六郷仏教会の花まつりは50年以上の歴史があります。沿道にはたくさんのお見物客が出迎え、かわいらしい子どもたちの姿に笑顔で手を振っていました。

善応寺では灌仏会法要が執り行われ、お釈迦様が誕生した際に天から甘露が降り注いだという言い伝えのもとに、子どもたちが一人ひとりお釈迦様の立像に甘茶をかけました。



楽しく汗を流しました 町内小学校で運動会

4月29日と5月13日に、町内の小学校で運動会が開催されました。各校で熱のこもった応援やユーモアな競技が繰り広げられ、参加者全員で楽しいひと時を過ごしました。



▲金沢小学校



▲千屋小学校



▲千畑南小学校



▲仙南東小学校



▲仙南西小学校



▲六郷小学校

伝える



町議会臨時会で行政報告を行う松田町長

美郷町長
松田知己

風

新緑に心癒される時期となりました。眺めることによって諸事から心が解放され、気持ちが軽やかになります。みなさんはいかがでしょうか。

さて、先般、その「緑」に関して判断を質される（な）ことがありました。美郷中学校前の歩道の桜についてです。「なぜ伐採した」という趣旨でしたが、私だつて切りたくはありませんでした。農学部卒業の私は基本的に緑を愛しているからです。しかし、町としては切らざるを得な

い理由がありました。

すべての樹木に共通ですが、年数を重ねると枝幹は太くなります。その結果、降雪期には枝間に雪が溜まります。そして、予告なしに雪塊が落下します。それに伴う危険性については説明の必要がありません。そこで考えるのが枝の剪定です。しかし、生徒の安全を考え歩道側を剪定し、車両の安全を考え車道側を剪定すると、残りは幹だけになり桜として成立しません。残念ながら、後世必ずこうなると分かる場所に植樹した結果ですが、生徒の安全を求める保護者や学校の要望に伝えるには、結論は一つしかなかったということです。本欄を通じて判断の核心をお伝えします。ご理解ください。

あらゆる判断には、そこに至った思慮と経緯が必ずあります。当たり前ですが、私はこれまで無思慮で安直な判断はしてきていないつもりです。そしてこれからもしません。しかし、改めてそうした思慮と判断の経緯がみなさんに伝わらないことも分かりました。役場内で議論を重ね、内容によっては町議会と意見交換し、その上で判断した事柄についてどうすればみなさんに誤解なくきちんと伝えられるか、関係職員とよく考えたいと思います。

以心伝心という言葉がありますが、現実にはなかなかそうもいきません。やはり言葉で伝える努力が何より必要だろうと思います。その際の仕組みが考えどころです。漫画の一休さんだったり、座禅をしながら坊主頭の人差し指を寄せ、「くるくる」と円を描けばばつと知恵が出てくるわけですが、私の頭では：やはり「三人寄れば文殊の知恵」に頼りたいと思います。